

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公表番号】特表2004-517643(P2004-517643A)

【公表日】平成16年6月17日(2004.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2004-023

【出願番号】特願2002-565075(P2002-565075)

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 9/58

C 1 2 N 9/60

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 9/58 Z N A

C 1 2 N 9/60

【手続補正書】

【提出日】平成15年8月27日(2003.8.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) プロテイナーゼKの酵素原前駆体をコードする配列の上流で、シグナルペプチドをコードする配列とリーディングフレームで融合されたプロテイナーゼKの酵素原前駆体をコードし、かつ宿主細胞に対して適切なプロモーターの制御下にあるDNAを含む、ベクターを用いた宿主細胞の形質転換、

b) プロテイナーゼKの酵素原前駆体の発現

c) プロテイナーゼKの分泌および自己触媒活性化

の工程を含む組換えプロテイナーゼKを作製する方法であって、宿主細胞が酵母細胞であり、タンパク質が該発現宿主によって可溶性形態で発現されることに特徴を有する方法。

【請求項2】

プロテイナーゼKの酵素原前駆体をコードする遺伝子がベクターpPICZ、pPICZ、pGAPZ、pGAPZ、pPICZ AおよびpPIC9Kのうちの1つにクローニングされる、請求項1記載の方法。

【請求項3】

タンパク質の分泌がSaccharomyces cerevisiae由来の因子のシグナルペプチドのN末端融合により開始される、請求項1または2記載の方法。

【請求項4】

酵母の形質転換に適切である、プロテイナーゼKの酵素原前駆体をコードするDNAを含んでなるベクターであって、ここで、該DNAがコーディング配列の上流で適切なシグナルペプチドをコードする配列とリーディングフレームで融合され、コーディング遺伝子が宿主細胞に適切であるプロモーターの制御下にある、ベクター。

【請求項5】

酵母である、請求項4記載のベクターで形質転換された宿主細胞。

(2)

JP 2004-517643 A5 2005.5.26